

島生み（その二）その5

伊岐（いき）の島またの名は天比登都柱（あめひとつはしら）。次に津（つ）島を生みたまひき。またの名は天（あめ）の狭手依比売（さでよりひめ）といふ。次に佐渡（さど）の島を生みたまひき。次に大倭豊秋津（おほやまととよあきつ）島を生みたまひき。またの名は天（あま）つ御虚空豊秋津根別（もそらとよあきつねわけ）といふ。かれこの八島のまづ生まれしに因りて、大八島国（おほやしまくに）といふ。

然ありて後還ります時に、吉備（きび）の児島（こじま）を生みたまひき。またの名は建日方別（たけひかたわけ）といふ。次に小豆島（あづきしま）を生みたまひき。またの名は大野手比売（おほのてひめ）といふ。次に大島（おほしま）を生みたまひき。またの名は大多麻流別（おほたまるわけ）といふ。次に女島（ひめしま）を生みたまひき。またの名は天一根（あめひとつね）といふ。次に知珂（ちか）の島を生みたまひき。またの名は天の忍男（おしを）。次に両児（ふたご）の島を生みたまひき。またの名は天の両屋（ふたや）といふ。

／解説／

伊岐（いき）の島またの名は天比登都柱（あめひとつはしら）。

言霊イキの精神宇宙に於いての区分。伊耶那岐の神・伊耶那美の神の宝座。伊岐の島とは伊の気の島の意でイ（キ）言霊のこと。天比登都柱とは先天構造の一つ柱の意であります。絶対観の立場から見ると、言霊イとキは一つとなり、母音の縦の並びアオウエイと半母音の並びワヲウエキの五段階の宇宙を縦の一本の柱として統一しています。この統一した一本の柱を天之御柱と呼びます。伊勢神宮内外宮の本殿の床中央の床下にこの柱を斎き立て、これを心柱・忌柱または御量柱と呼び神宮の最奥の秘儀とされています。この心の御柱は人間に自覚された五次元界層の姿として、人間の精神宇宙の時は今、場所は此処の中今に天地を貫いてスックと立っています。一切の心の現象は此処から発現し、また此処へ帰って行きます。天比登都柱の莊嚴この上ない意義を推察する事が出来るであります。

以上で心の先天構造を構成する五段階の言霊の位置を示す五つの島名の説明を終わります。これ等島の名によってその区分に属す言霊の占める精神宇宙の位置ばかりでなく、言霊それぞれの内容を理解するよすがとなることをお分り頂けたことと思います。島の名はこれより創生される言霊子音並びに言霊五十音の整理・運用に係る島名となります。まだ古事記の文章に登場しない言霊の位置を示す島の説明をしましても無意味な事でもありますので、古事記の文章が進む節々に従って島名の説明をすることといたし、解説は三十二子音創生の章に移らせて頂きます。

既に国を生み竟（を）へて、更に神を生みたまひき。かれ生みたまふ神の名は大事忍男（おおことおしを）の神、次に石土昆虫（いはつちひこ）の神を生みたまひ、次に石巢（いはす）比売の神を生みたまひ、次に大戸日別（おおとひわけ）の神を生みたまひ、次に天の吹男（あめのふきを）の神を生みたまひ、次に大屋昆虫（おおやひこ）の神を生みたまひ、次に風木津別（かぜもつわけ）の忍男（おしを）の神を生みたまひ、次に海（わた）の神名は大綿津見（わたつみ）の神を生みたまひ、次に水戸（みなど）の神名に速秋津日子（はやあきつひこ）の神、次に妹（いも）速秋津比売の神を生みたまひき。